

# カナダ農務省バンクーバー研究所図書館の1日

誌名	日本農学図書館協議会会報
ISSN	03858081
著者名	松本,力
発行元	日本農学図書館協議会
巻/号	68号
掲載ページ	p. 19-23
発行年月	1987年10月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## カナダ農務省バンクーバー研究所図書館の1日

(A Day at the Agriculture Canada  
Vancouver Research Station Library)

松本 力\*

ここは、広大なカナダの土地に点々と散らばっている33のカナダ農務省研究所の中で、一番西の端にあるバンクーバー研究所である。道路一つ隔てた向こう側は断崖絶壁の下に太平洋がある。この研究所は、植物ウィルスとその媒介昆虫の研究が主流をなし、国立植物ウィルス研究所としても知られている。研究員数は20名とさほど多くはないが、研究員は粒揃い、と所長は自慢している。実際、いつも世界のどこからか、誰かしら客員研究員として来所して共同研究をしているし、新しいウィルスの発見もいくつかされていることからみても、かなりの成果はあがっているといえよう。見学者も結構あり、日本からも研究員が数名、農協の団体も3~4組訪れている。

研究所の建物は2棟あって、一つは一階が事務室と会議室になっており、二階は土壌資源研究所に貸してある。他の1棟は三階建てで、研究室その他の設備があるが、その二階にわが図書室がある。ちょうど中心ということで、便利さからいって誰も文句のいえない場所だ。

図書室には、ライブラリアンである私の他に、リベッカという名のアシスタントの女性が一人いる。アシスタントの応募資格は高校

卒で、図書館の仕事の経験のある人となっているのだが、彼女は大学卒で数年の図書館経験を有する。28才で独身。近い将来英文学か図書館学で修士号を取りたいという希望も持っている。彼女の前にいたアシスタントも、またその前にいたアシスタントも、みんな大学卒であった。カナダの失業率は、ここ数年ずっと10%を越しているのだから、大学卒の人も含めて就職口がかなり狭い。彼女が職業斡施所を通してここに応募してきた時には、彼女を含めて5人を面接したのだが、そのうちの4人は大学卒で、残りの一人は、図書館のアシスタント専門学校（高卒後二年間）を終了した女子であった。

国家公務員は毎年新卒者を雇うというのではなく、空きができたつど補充するようになっている。それも、まず国家公務員の中だけで応募者を募る。ほとんどの公務員にとって、この時が唯一の昇級チャンスなのだ。同じ職種でもそれぞれ等級があり、一旦ある地位におさまったら、自分から希望する以外まずそこを動かされることはない。反対に優秀な人、または面接受けのよい人は、ある程度の経験を積んだら、すぐに上の空いている地位に応募し、トントン拍子に出世することも可能だ。

\* Tony Matsumoto, Librarian, Agriculture Canada, Research Station Library, Marine Drive, Vancouver, B. C., Canada.

私の身近かにも幾人かそんな人がある。農務省図書館館長のペギー・モートン女史も、そういう一人である。以前ある研究所で化学を研究していた彼女が、1970年、大学に戻りライブラリアンの資格を取ったのだ。そして1979年にはもうカナダではかなり大きな農務省図書館本館の館長になってしまった。あざやかという他はない。

農務省図書館の本館はオタワにあり、分館は各地に散在しているが、そのほとんどが研究所にある。国家公務員のライブラリアンには、6段階の等級があって、農務省図書館の場合、館長は司書であり、かつ、マネジメントのクラスに入る。これは別格として、3人いる副館長が5等級である。次の部長クラスが4等級、課長クラスが3等級、私を含めてその他多勢は2等級、1等級というのは臨時雇いか訓練生で、めったに見当らない。この他、本館にはライブラリアンの資格を持たないアシスタントがライブラリアンの数より多くいるが、彼等は事務職で、ライブラリアンとは別のカテゴリーに入る。ライブラリアンの学位がない限り、何年図書館で働いても、ライブラリアンの肩書きはつけられないのである。

ライブラリアンの資格は、図書館学校を無事卒業して初めて入手できるもので、図書館学校入学資格は、学士号保持者に限られる。他の学部と同様入学試験はないが、大学院と同様教授による面接がある。カナダの図書館学校は、今はみんな二年制になってしまい、修士号を取得できるようになっている。昔は一年制で学士号というのもあった。私はブリティッシュ・コロンビア大学の図書館学校が一年制から二年制に変わった最初の卒業生の一人で、今から14年前のことである。

私はバンクーバー研究所に勤務しているも

の、前述のように私の雇い主は、オタワにある農務省図書館である。だから、2週間に1度の給料日には、私とアシスタント嬢の小切手が、オタワから私宛てに郵送されてくる。他の職員はみんな、下の事務所から一枚一枚小切手を貰う。私のように研究所に派遣されているライブラリアンの数は27人、それに昨年から農務省に編入された林業試験場のライブラリアンを含めると34人になる。そのほとんどがアシスタント無しで、ひとりて頑張っている。小さな研究所では、半日だけのパートタイムのライブラリアンだけの所もある。またさらに小さな所では、無人の図書室もある。研究所以外で図書室のある場所もあるが、それらはみんな無人で、その事務員が雑誌類の陳列および整理整頓をおこなっている。ここブリティッシュ・コロンビア州にも3か所無人の図書室がある。その所員および職員が、何かの情報か文献が必要な時には、私の所へ電話かエレクトロニックメール(EM)で連絡してくる。

EM といえば、カナダでは、ENVOY 100 というシステムがよく使われているのだが、農務省には、DIGITAL 社の VAX コンピュータを使った省内だけの EM システムがあり、これがすこぶる便利だ。オタワの本館との連絡はほとんどこれで済ましている。何しろ、オタワとこの時間差は3時間もあるので、ここの午後1時半は向こうでは4時半、すでに退社時刻である。そのため、電話で話す機会をたびたび逸す。その点 EM だと、相手のいない時でもメッセージを送っておくと、翌朝それを読んでくれるので都合が良い。

わがアシスタント嬢の日課もこの EM を読むことから始まる。EM には、他のライブラリアンからの連絡やリクエスト、はてまた誰その赤ん坊が産まれたなどいろいろなメ

ッセージがあり、EM はすっかり図書館のシステムの一つになってしまった。

閲覧室には横に長い斜めの陳列棚が5段ある。その1段1段には月曜から金曜までのラベルがついており、月曜日に届いた雑誌類は、すべて月曜のラベルのついた棚に陳列される。それはそこに一週間陳列され、次の月曜日にはその日に届いた新しい雑誌と交換される。そこからの貸し出しは一切禁止にしてありどの研究員も最低1週間に一辺この閲覧室にやってくれば、全部の雑誌に目が通せる仕組みになっている。

その棚には、本館から自動的に送られてくるいくつかの雑誌も陳列される。これらはAUTOMATIC CIRCULATION (AC)と呼ばれ、1週間後にオタワに返送される。ACは本館のサービスの中で、もっとも皆に重宝がられるものである。どこの研究所でも、研究員全員が要求する雑誌をすべて購入することは不可能で、絶体に必要な雑誌のみ購入し、それ以外の雑誌は、本館に読みたい雑誌のリストを送ると、後は自動的に毎号郵送してくれる。バンクーバー研究所のリストには200以上の雑誌が載っている。このACのサービスは研究所ばかりでなく、農務省の職員なら誰でも受けられ、近くに図書館などまず無い辺地にいる動物検査官などからは、特に喜ばれているとのことである。

ACと同様ありがたい本館のサービスに、本の目録作成がある。研究所で本を購入したら、その旨を本館に伝えると、直ちに目録をとってくれる。目録された結果はすべてコンピュータに入れられる。コンピュータの名はGEAC、れっきとしたカナダ国産である。GEACは銀行業務用として開発されたものだが、図書館でも使用され、農務省図書館をはじめ除々に使用者がふえ、アメリカの図書

館にも進出し、最近ではバチカンにあるローマ法皇の図書館にも採用されて、GEAC社の自慢の種になっている。

オタワの本館にあるGEACに納められているデータは、電話線を通してここバンクーバーでも読むことができる。本についている請求番号もこれでみつける。1977年以後に目録された本館と分館の蔵書のデータがみんな入っているので、自分の所に無い資料でも他の機関が持っているかないか一目でわかり、借りる時に便利だ。本館に本の目録作成を依頼する場合、まずこのGEACを覗いてみる。すでにその本が記録されている場合は、その請求番号をそのままらうのがほとんどだ。そうすることにより、本館からの確認を待たずに、ブックカードをタイプして、ここでの目録作業はその日のうちに完了できる。何かの理由で、独自の請求番号をつけたい時には、その旨本館の目録係員に告げてつけて貰う。GEACに記録されていない本を目録する場合は、ちょっと手数がかかる。標題紙をコピーし、目録に必要な他の情報を書き加えて本館に送らねばならない。自分の好みの請求番号があったら、それも記入しておく。私の場合は面倒なので、いつも“勝手に番号をつけて下さい”と書いておく。何をするにしても、楽するに越したことはない。

本館の目録係員は何をするかという、これは北米のほとんどの図書館と同様、アメリカ議会図書館(LC)に右へならえである。ただし、分類番号はDEWEYを使っている。カナダの公共図書館の多分全部がDEWEYを使っている。以前はカナダのトロント大学が産みの親であるUTLASを利用していたのだが、数年ほど前から、手数料が高過ぎるとの理由でDOBISに切り換えた。これはドイツ技術の輸入で、カナダではオタワにある

カナダ国立図書館で最初に導入し、これをカナダ用に改良した。要するに、正式な国語と称する英仏両語を使えるようにしたのだ。そのコンピュータをそっくりそのまま利用させてもらっている。同じ連邦政府の傘下にあるせいか、UTLAS と比べて手数料はかなり安いという。UTLAS は現在、営利目的の会社組織となっており、DOBIS とその手数料を比較されるのが気の毒なほどである。UTLAS にしろ、DOBIS にしろ、基本は LC のテープであり、あまり変わらない。ところで、この UTLAS の経営権が、いまアメリカのある会社に売られようとしている。UTLAS は前述のようにトロント大学が手掛けたもので、カナダ独自のデータがかなり入っている。それを他国の手に売り払うということは、国の文化の退廃につながるとして、心あるライブラリアン達がいま反対運動を起している。

農務省図書館は、生物関係の図書館としてはカナダ一番の蔵書を誇っている。また、世界各地の諸機関と研究雑誌交換の協定を結んでおり、そうして収集している雑誌の種類は 17,000 種以上、20,000 種を越す雑誌コレクションの実に 85% に相当し、遠くからわれわれ分館をバックアップしてくれている。

当研究所はブリティッシュ・コロンビア大学 (UBC) の構内にあるので、その大学図書館は大いに利用させてもらっている。オタワの本館から文献を取り寄せるのは 10 日も日数がかかるので、本館利用は UBC で用が足りない時に限られる。本館は年間 4 万件ものリクエストを受け取るので大変なのである。そこで、UBC の図書館に直接図書の借り出しに出掛けるのが、リベッカの主な日課になっている。研究所員がリクエストした文献のリストを持って、天気の良い日は自転車で、雨の日は車で、数個所に散らばっている UBC

の図書館めぐりに出掛ける。なにしろ敷地は横に 2 km もあるので、乗物を必要とする。これは午後の仕事で、午前中にリクエストされた文献は、その日のうちに所員に届けることができる。

ここで日本語の文献を手にするのはちょっと大変だ。日本の主な農学雑誌は北米のどこかの図書館に大体あり、そこから入手できるのだが、たまに入手困難、または不可能な時もある。それが大学紀要の類である場合は、その大学の図書館の方に手紙を書いて送ってもらう。新しい文献の場合は、著者に直接手紙を書く。その時にはその文献の他に、それと類似の本人の論文をいくつか一緒に送られてくることもあり、所員に喜ばれる。それ以外の文献では最近では日本大学農獣医学部図書館の小沼麗子女史にすべてお世話になっている。女史とは IAALD のオタワの会議で顔見知りになって以来、ずっと厄介の掛けっぱなしである。お陰で、日本からの文献取り寄せの成功率は 100% になり、ここの所員に対して鼻が高い。本当にありがたいと思っている。

3 年ほど前から、農務省でマイクロコンピュータの利用が急増し、私の図書室にも 2 年ほど前に、IBM の PC をひとつ買ってもらった。30メガバイトのハードディスクもついていて、このために、DIALOG 等を使っておこなうオンライン文献調査が大変楽になった。調査用語は、オンラインになる前にたっぷりと時間をかけて入れておくことができる。タイプの苦手な私には、こんなに有難いことはない。オンラインの時間が少なくて済み、経費節約になる。

ソフトの方はロータス社によるシンフォニーを利用してる。これは北米で爆発的な人気をえたロータス 1—2—3 に、さらにコミュ

ニケーションとワープロの機能をつけ加えたもので、これひとつで何でもこなせる万能選手だ。ずい分重宝している。ある程度のプログラミングが可能なので、リベッカでも苦もなく使えるように、いくつかのプログラムを作った。図書館でのあらゆる記録簿はすべてこのパソコンにとって代わられた。

ここの研究所員に特に喜ばれるわれわれのサービスとして、文献のオンライン調査と CAN/SDI (Canadian Selective Dissemination of Information) がある。CAN/SDI は CISTI (Canada Institute for Scientific and Technical Information : カナダ科学技術情報センター) がおこなっているサービスで、希望の研究題目のリストを送っておくと、その分野の最新の文献リストを定期的に送ってくれる。色々な情報テープがあるが、当研究所では BIOLOGICAL ABSTRACTS の BA PREVIEWS を指定してある。そのテープは毎週新しいのが入るので、文献のリストも毎週送られてくる。BA は世界中の主な生物関係誌をみんな集めるので、数千もある専門雑誌に實際目を通すことなく、そこに載っている自分と同じ研究分野の論文を知ることができる。リクエストされる日本語の文献の大半も、この CAN/SDI で見付けられたものだ。

オンライン文献調査は、お馴染みの DIALOG と、それに CISTI がおこなっている CAN/OLE (Canadian Online Enquiry) を使用している。CAN/OLE には、純カナダ製のいくつかのテープもあるが、農学と関係するのはなく、ほとんど使わない。BA PREVIEWS や CAB、それに CHEMICAL ABSTRACTS もあるので、それらをよく使う。これらのテープは DIALOG にもあるのだが、国産愛用の精神から、できるだけ CAN/OL

E を使うようにしてる。AGRICOLA とか BIP など、DIALOG にしか入ってない情報が欲しい時にだけ、DIALOG を使う。CAN/OLE は DIALOG と比較して、探索構造が大変シンプルだ。そこで、きめ細かな文献調査が必要な時には、同じ BA PREVIEWS を使うにしても、DIALOG に頼らざるをえないこともある。

ランチタイムの後、すぐ UBC に出掛けたりリベッカが、本を抱えて帰ってくるのが大体午後の 3 時、ちょうどティータイムの時間だ。午前中の休憩時間はコーヒータイトムと呼ばれ、午後はティーに変わる。ティータイムが済んだ後、リベッカは借りてきた雑誌類のコピーをとったり、与えられたプロジェクトに取り組む。プロジェクトにはいろいろある。いままで彼女がおこなったもので時間の掛かったものとしては、書架整頓や紛失図書リストの作成がある。

現在は、ブリティッシュ・コロンビア州にあるいくつかの研究所が過去 100 年にわたって出版した研究論文のリストを作るプロジェクトを私がしてるため、その手伝いをしてきている。4時半が彼女の帰宅時間、毎日 1 分も遅れずに帰る。私は 9 時出勤にしているため、帰りは 5 時、これもほとんど定刻通り帰る。私が帰る頃は駐車場に駐車している車はほとんどない。建物の鍵も 5 時にかかり、これで一般の人ははいれない。図書館の一日もこれで終る。

5 時にはすでに車のヘッドライトをつけなければならぬ季節には、風光明媚な町として知られるバンクバーのダウンタウンの夜景がひととき美しい帰宅ルートをとって帰る。仕事のことは、もうすっかり頭の中から消えている。